

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スポーツビジネス概論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	スポーツビジネス概論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	スポーツビジネス概論4 最新スポーツビジネスの基礎		出版社	叢文社 同文館出版株式会社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツが商品として様々な形で消費されている業態と、それを消費する人々の特性についての知識を身につける。また、スポーツ産業全体と身近なスポーツの環境におけるスポーツをマネジメントする知識を身につける。				
到達目標	現代社会におけるスポーツ産業の主要3領域（用品産業、施設・空間産業、サービス・情報産業）を理解する。スポーツビジネスの概念と仕組みを理解する。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	スポーツビジネス概論Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	上本 哲也	実務経験		○	
実務内容	スポーツクラブで様々な年齢層を対象にトレーナー、インストラクターとして11年間活動				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション スポーツビジネスとは	オリエンテーション
2	スポーツビジネスの歴史と市場	スポーツビジネスの歴史と現代日本の市場を理解する。
3	スポーツビジネスとは	わが国のスポーツビジネスのビジョンについて理解する
4	スポーツ産業の3領域①	用品産業、施設・空間産業、サービス・情報産業を理解する
5	スポーツ産業の3領域②	用品産業、施設・空間産業、サービス・情報産業を理解する
6	スポーツ産業の3領域③	用品産業、施設・空間産業、サービス・情報産業を理解する
7	スポーツ産業の3領域④	用品産業、施設・空間産業、サービス・情報産業を理解する

8	ビジネス別の論点	スポーツ用品ビジネス・会計処理について理解する
9	ビジネス別の論点	スポーツ食品ビジネスについて理解する
10	ビジネス別の論点	スポーツメディアビジネスについて理解する
11	ビジネス別の論点	スポーツイベントビジネスについて理解する
12	ビジネス別の論点	スポーツ施設建設・スタジアム経営について理解する
13	テスト	テストを実施する
14	まとめ①	ビジネス概論Ⅰの総まとめ
15	まとめ②	ビジネス概論Ⅰの総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スポーツビジネス概論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	スポーツビジネス概論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	スポーツビジネス概論4 最新スポーツビジネスの基礎		出版社	叢文社 同文館出版株式会社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツが商品として様々な形で消費されている業態と、それを消費する人々の特性についての知識を身につける。また、スポーツ産業全体と身近なスポーツの環境におけるスポーツをマネジメントする知識を身につける。				
到達目標	スポーツ概論Ⅰを基に、各市場について理解を深めます。プロスポーツから海外との比較、日本のビジネスで注目されている最新の市場を理解する。また、そこに取り巻く課題について知る。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	スポーツビジネス概論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	上本 哲也	実務経験		○	
実務内容	スポーツクラブで様々な年齢層を対象にトレーナー、インストラクターとして11年間活動				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期の振り返り	前期の振り返り
2	オリンピック・パラリンピック	W杯を含む組織体制、ビジネス展開、経済効果、企業、地域などがどのように関係しているか理解する。
3	サッカー業界	業界のビジネス展開、経済効果、課題、企業、地域などがどのように関係しているか理解する。
4	野球業界	業界のビジネス展開、経済効果、課題、企業、地域などがどのように関係しているか理解する。
5	バスケットボール業界	業界のビジネス展開、経済効果、課題、企業、地域などがどのように関係しているか理解する。
6	日本プロスポーツ協会	日本のプロスポーツ協会に加盟している協会がどのようにビジネス展開、経済効果、課題、企業、地域が関係しているか理解する。
7	日本と海外のスポーツビジネス	日本と海外のスポーツビジネスについて理解する
8	カレッジスポーツ	大学スポーツについて諸外国との違いを理解する。

9	スポーツとヘルスケア・健康ビジネス・ スポーツ×ICT・工学	スポーツ×ヘルスケアやスポーツ×健康によるビジネスを理解する スポーツ×ICTや工学によるビジネスを理解する。
10	スポーツビジネスのこれから	スポーツビジネスの創出について理解する
11	スポーツビジネスのこれから	スポーツビジネスの創出について理解する
12	スポーツツーリズム	スポーツツーリズムについて理解する。
13	部企業とスポーツ	企業のスポーツ活用について理解する
14	テスト	テストを実施する
15	まとめ	ビジネス概論IIの総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スポーツマネジメントⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	スポーツマネジメントⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	基本・スポーツマネジメント		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツマネジメントの基本概念や基本的な活動について理解させる				
到達目標	スポーツマネジメントの基本的な活動を理解する マネジメントの基本理論を理解する				
評価基準	テスト：70% 小テスト：30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	スポーツマネジメントⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	富田 美江子	実務経験		○	
実務内容	スポーツクラブにてトレーナーとして9年間勤務（内副支配人歴7年）				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション スポーツマネジメントのめざすもの①	授業概要と評価基準等の説明 スポーツとマネジメントの意味することについて
2	スポーツマネジメントのめざすもの②	スポーツマネジメントの目標と特性について
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの使命と各業務について
4	マネジメント組織の理念	ドラッカーについて
5	マネジメントと製品論	製品（プロダクト）に関する理解について
6	組織における人間観	人間観の重要性について
7	マネジメントと組織論①	組織の階層とスキルについて
8	マネジメントと組織論②	組織におけるリーダーシップ論について

9	マネジメントとマーケティング論①	マーケティングの基本的な仕組みについて
10	マネジメントとマーケティング論②	マーケティングミックスとセグメンテーションについて
11	マネジメントとマーケティング論③	マーケティング戦略について
12	マネジメントとマーケティング論④	マーケティングのための組織論について
13	テスト/振り返り	
14	スポーツプロダクト①	スポーツプロダクトの構造について
15	スポーツプロダクト②	スポーツサービスとスポーツベネフィットについて

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スポーツマネジメントⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	スポーツマネジメントⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	基本・スポーツマネジメント		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツマネジメントの基本概念や基本的な活動について理解させる				
到達目標	スポーツマネジメントの基本的な活動を理解する マネジメントの基本理論を理解する				
評価基準	テスト：70% 小テスト：30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	フィットネスクラブマネジメント技能検定3級				
関連科目	スポーツマネジメントⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	富田 美江子	実務経験		○	
実務内容	スポーツクラブにてトレーナーとして9年間勤務（内副支配人歴7年）				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	スポーツ事業論①	スポーツ事業とエリアサービスについて
2	スポーツ事業論②	クラブサービスとプログラムサービスについて
3	スポーツ事業論①	スポーツ事業とマネジメントについて
4	運動生活	運動生活のマネジメントについて
5	スポーツ事業の特色とマネジメント①	総合型地域スポーツクラブとスポーツ教室について
6	スポーツ事業の特色とマネジメント①	スポーツイベントと施設開放・レンタルについて
7	スポーツマーケティング①	消費者の認知行動過程について
8	スポーツマーケティング①	ロイヤリティについて

9	スポーツマーケティング①	エリアマーケティングについて
10	スポーツ政策	スポーツ政策の基本について
11	アスリートの育成とマネジメント	育成のためのマネジメントについて
12	女性スポーツとマネジメント	現代女性のためのサービスづくりについて
13	テスト/振り返り	
14	マンガとスポーツマネジメント	スポーツプロダクトとしてのスポーツマンガについて
15	子供の体力向上とマネジメント	体力向上のためのマネジメントについて

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スポーツトレンドリサーチⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	スポーツトレンドリサーチⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	NEXT		出版社	クラブビジネスジャパン	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツ業界で起こっている様々なトレンドを知ることで、スポーツビジネスの動向などを把握し考える力を身につける。				
到達目標	スポーツ業界における最新の市場動向を理解することができる 業界内でスポーツビジネスとして注目されているモノ・サービスの知識を習得することができる				
評価基準	テスト：40% 授業態度：30% 提出物：30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	スポーツトレンドリサーチⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	島袋 雄輝	実務経験		○	
実務内容	ホテルオークラ福岡ヘルスクラブにてパーソナルトレーナーとして勤務5年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標についての説明
2	フィットネストrend①	NEXT4月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて
3	フィットネストrend②	NEXT4月号：特集について
4	日本におけるスポーツ実施状況	スポーツ庁による国民のスポーツ実施率について
5	フィットネストrend③	NEXT5月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて
6	フィットネストrend④	NEXT5月号：特集について
7	プロスポーツチーム連携	日本におけるスポーツビジネスの事例紹介（地域プロスポーツチームとの連携等）
8	障がい者スポーツ	障がい者スポーツについて事例を紹介
9	フィットネストrend⑤	NEXT6月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて

10	フィットネストレンド⑥	NEXT6月号：特集について
11	スポーツ用品トレンド①	スポーツ用品や小売りのトレンド事例を紹介
12	スポーツ用品トレンド②	
13	ケーススタディ	自分が気になるトレンドを持ち寄り、ワークショップ形式による発表
14	テスト	テストの実施
15	まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スポーツトレンドリサーチⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	スポーツトレンドリサーチⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	NEXT		出版社	クラブビジネスジャパン	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツ業界で起こっている様々なトレンドを知ること、スポーツビジネスの動向などを把握し考える力を身につける。				
到達目標	スポーツ業界における最新の市場動向を理解することができる 業界内でスポーツビジネスとして注目されているモノ・サービスの知識を習得することができる 自身でリサーチをする力、発表する力を身に付けることができる				
評価基準	テスト：40% 授業態度：30% 提出物：30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	スポーツトレンドリサーチⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	島袋 雄輝	実務経験		○	
実務内容	ホテルオークラ福岡ヘルスクラブにてパーソナルトレーナーとして勤務5年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フィットネストrend⑩	NEXT10月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて
2	フィットネストrend⑪	NEXT10月号：特集について
3	スポーツツーリズム	スポーツツーリズムの事例を紹介
4	eスポーツ、IT	スポーツビジネスとeスポーツ、ITの事例紹介
5	フィットネストrend⑫	NEXT11月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて
6	フィットネストrend⑬	NEXT11月号：特集について
7	国際交流	国際×スポーツの取り組み事例を紹介
8	教育、学校現場、大学スポーツ	教育×スポーツの取り組みの事例や現状の紹介
9	フィットネストrend⑭	NEXT12月号：News Pick Up10・KeyWords&Numbersについて

10	フィットネストレンド®	NEXT12月号：特集について
11	ヘルスケアビジネストレンド	日本におけるヘルスケアビジネスの政策や事例を紹介
12	ケーススタディ	自分が気になるトレンドを持ち寄り、ワークショップ形式による発表
13	ケーススタディ	
14	テスト	テストの実施
15	まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	身体運動の基礎科学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	身体運動の基礎科学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト理論編		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	運動やトレーニングにおける科学的理解に必要な身体に関する基礎知識（機能解剖・生理学・医学・栄養学等）を身につける。				
到達目標	フィットネスクラブサービスの経営に参画する立場として、提供するサービスにおける知識の裏付けとなる、「機能解剖学」、「運動生理学」、「スポーツ医学」、「スポーツ栄養学」の基礎知識を身につける。				
評価基準	テスト/小テスト：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	身体運動の基礎科学Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	城戸 宏文	実務経験		○	
実務内容	筑紫丘高校ラグビー部にてトレーナーとして3年間勤務、九州電力キューデンヴォルテクスにてS&Cコーチとして5年間勤務、ルーヴェン福岡フットボールクラブにてフィジカルコーチとして8年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	機能解剖学	上肢（上肢の骨、上肢の関節）
2		上肢（上肢の筋肉、上肢の神経と血管）
3		脊柱と胸郭（脊柱の基本構造、脊柱・胸郭の骨）
4		脊柱と胸郭（脊柱の基本構造、脊柱・胸郭の骨）
5		脊柱と胸郭（脊柱・胸郭の関節、脊柱・胸郭の筋肉）
6		下肢（関節の運動を表す用語、下肢の骨）
7		下肢（下肢の関節、下肢の筋肉、下肢の神経と動脈）

8	運動生理学	呼吸循環系・エネルギー代謝と運動（呼吸循環系の基礎的情報、運動と呼吸循環系）
9		呼吸循環系・エネルギー代謝と運動（トレーニングと呼吸循環系、エネルギー代謝の基礎的情報）
10		呼吸循環系・エネルギー代謝と運動（運動とエネルギー代謝、トレーニングとエネルギー代謝）
11		骨格筋系、神経系、内分泌系と運動（骨格筋の形態と機能、筋力発揮のメカニズム）
12		骨格筋系、神経系、内分泌系と運動（筋・神経系に対するトレーニング効果、主な内分泌器官とホルモン）
13		骨格筋系、神経系、内分泌系と運動（身体機能へのホルモンの作用、筋肥大におけるホルモンの役割、レジスタンストレーニングとホルモン分泌）
14		機能解剖学、運動生理学まとめ
15	まとめ	内容の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	身体運動の基礎科学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	身体運動の基礎科学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト理論編		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	運動やトレーニングにおける科学的理解に必要な身体に関する基礎知識（機能解剖・生理学・医学・栄養学等）を身につける。				
到達目標	フィットネスクラブサービスの経営に参画する立場として、提供するサービスにおける知識の裏付けとなる、「機能解剖学」、「運動生理学」、「スポーツ医学」、「スポーツ栄養学」の基礎知識を身につける。				
評価基準	テスト/小テスト：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	身体運動の基礎科学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	城戸 宏文	実務経験	○		
実務内容	筑紫丘高校ラグビー部にてトレーナーとして3年間勤務、九州電力キューデンヴォルテクスにてS&Cコーチとして5年間勤務、ルーヴェン福岡フットボールクラブにてフィジカルコーチとして8年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	運動と栄養	運動と栄養に関する基礎知識（五大栄養素の役割）
2		運動と栄養に関する基礎知識（身体組成とエネルギー代謝①）
3		運動と栄養に関する基礎知識（身体組成とエネルギー代謝②、スポーツ栄養マネジメント）
4		スポーツ選手の競技力向上と栄養（種目特性の分類と食事、トレーニングスケジュールと食事、グリコーゲン補給と回復のための食事）
5		スポーツ選手の競技力向上と栄養（水分補給、栄養・食事計画の立案、目的別の食事管理、栄養サポートと栄養教育の実践）
6		健康増進と栄養（健康日本21における具体的な目標、日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド）
7		健康増進と栄養（食事バランスガイドを活用した食事指導、食育について）

8	運動と医学	救急処置法（外傷の応急処置、創傷の応急処置）
9		救急処置法（緊急時の一次救命処置、頭頸部外傷時の救急処置）
10		スポーツ選手の整形外科的傷害と予防（スポーツ傷害とは、足部・足関節の傷害）
11		スポーツ選手の整形外科的傷害と予防（下腿部の傷害、膝関節の傷害）
12		スポーツ選手の整形外科的傷害と予防（大腿部の傷害、腰部の傷害）
13		スポーツ選手の整形外科的傷害と予防（肩関節の傷害、肘関節の傷害、手関節の傷害）
14		スポーツ選手の整形外科的傷害と予防のまとめ
15	まとめ	内容の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	トレーニングの基礎科学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	トレーニングの基礎科学Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト実践編		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	業界のコアサービスであるトレーニングに関して関係者とのコミュニケーションが図れるよう共通言語として運動やトレーニングの基礎・基本を理解する。				
到達目標	フィットネスクラブビジネスの中核を担っている、「筋力トレーニング」の原理・原則を理解する。 科学的根拠に基づいた知識の習得および、基礎的な筋力トレーニングプログラムの作成に関わる基礎知識を身につける。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	トレーニングの基礎科学Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山田 大介	実務経験		○	
実務内容	高校、大学部活動にてストレンクス&コンディショニングコーチとして15年間勤務、プロ野球選手パーソナルトレーナーとして10年間勤務、障害者アスリートサポートとして4年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	トレーニング指導者の役割	JATIについて ・トレーニング指導者とは 国内のトレーニング指導者に対するニーズ
2		トレーニング指導者の役割と業務 競技スポーツ分野における状況に応じた活動・トレーニング指導者の資質
3		トレーニング指導者が身につけるべき能力 トレーニング指導者の行動と倫理
4	トレーニング計画の立案（総論）	トレーニングとは トレーニングの原理と原則
5		トレーニング計画の立案
6		ピリオダイゼーション

7	筋力トレーニングのプログラム作成	筋力トレーニングの効果 筋力トレーニングのプログラムの条件設定	
8		エクササイズの種類と選択 負荷の手段とトレーニング器具	
9		エクササイズの配列	
10		負荷の設定 トレーニング目的に応じた条件設定	
11		セットの組み方 セットごとの重量や回数の設定	
12		特殊なトレーニングシステム 動作スピード	
13		トレーニング頻度 プログラムの分割	
14		長期プログラムの作成（期分け） 専門的エクササイズの設定	
15		まとめ	内容の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	トレーニングの基礎科学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	トレーニングの基礎科学Ⅱ		
		開講	単位数	時間数	
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト実践編		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を習得させる。				
到達目標	主に筋力トレーニング、パワー向上トレーニングに関する知識の習得する。 基礎的なトレーニングプログラムが作成できる。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	トレーニングの基礎科学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山田 大介	実務経験	○		
実務内容	高校、大学部活動にてストレンクス&コンディショニングコーチとして15年間勤務、プロ野球選手パーソナルトレーナーとして10年間勤務、障害者アスリートサポートとして4年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	筋力トレーニングのプログラム作成演習	対象、テーマを設定したうえでのピリオダイゼーションの作成①
2		対象、テーマを設定したうえでのピリオダイゼーションの作成②
3		対象、テーマを設定したうえでの筋力トレーニングプログラム作成③
4		対象、テーマを設定したうえでの筋力トレーニングプログラム作成④

5	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	パワーの基本理念・スポーツや日常生活動作におけるパワー 短期間に大きな力を発揮する能力
6		パワーに類似する用語・パワー発揮様式の分類・パワーの測定と評価
7		パワー向上トレーニングのプログラム戦略・トレーニングプログラム変数①
8		トレーニングプログラム変数②
9		反動動作における生理学的基礎 プライオメトリクスのプログラム変数
10		パワー向上トレーニングの長期的な計画 フィットネス分野におけるパワートレーニング
11	トレーニングの運営	トレーニング機器・器具 トレーニング環境
12		リスクマネジメント
13	トレンドトレーニング	フィットネスビジネスにおけるトレンド
14		(EMSトレーニング、加圧トレーニング、BFRトレーニング、ViPR、TRX、ボラール等)
15	まとめ	内容の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	トレンドエクササイズⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	トレンドエクササイズⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	1	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト 実践編		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スタジオプログラムや自重によるトレーニングを中心に様々なエクササイズやトレーニングを通して身体機能やトレーニングの基礎・基本の理解を深める。				
到達目標	レジスタンストレーニングの基本種目において、適切なデモンストレーションが見せられるようになる。 初心者に対して基本的なエクササイズの指導ができるようになる。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度・意欲：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	トレンドエクササイズⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	内野 理美	実務経験		○	
実務内容	スポーツクラブルネサンスにて10年間勤務、その後フリーランスとして3年間インストラクターとして活躍。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	筋力トレーニングの基礎知識と自重トレーニング	【理論】動作スピード、呼吸法、バーの握り方 【実技】自重トレーニング
2	マシントレーニング	【理論】レジスタンストレーニングの分類 【実技】マシントレーニング
3		【理論】アイソメトリックトレーニングの実際 【実技】マシントレーニング
4		【実技】マシントレーニング、アイソメトリックトレーニング
5		【理論】補助法 【実技】ベンチプレス
6	トレーニングにおけるBig3のテクニック習得と実践	【実技】ベンチプレス
7		【実技】ベンチプレス
8		【理論】ベルトの使用 【実技】バックスクワット

9	トレーニングにおけるBig 3の テクニック習得と実践	【実技】バックスクワット
10		【実技】バックスクワット
11		【理論】ストラップの使用 【実技】デッドリフト
12		【実技】デッドリフト
13		【実技】デッドリフト
14	前期まとめ①	・前期テクニック評価① 【ベンチプレス】 【デッドリフト】
15	前期まとめ②	・前期テクニック評価② 【バックスクワット】

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	トレンドエクササイズⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	トレンドエクササイズⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	1	30
使用教材	トレーニング指導者テキスト 実践編 健康運動実践指導者養成テキスト		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スタジオプログラムや自重によるトレーニングを中心に様々なエクササイズやトレーニングを通して身体機能やトレーニングの基礎・基本の理解を深める。				
到達目標	トレンドエクササイズⅠで習得した、基本的なレジスタンストレーニングのテクニックを踏まえうえて、フィットネスクラブにおけるプログラム開発に繋がる流行のエクササイズを体験して理解をする。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度・意欲：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	トレンドエクササイズⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	内野 理美	実務経験		○	
実務内容	スポーツクラブルネサンスにて10年間勤務、その後フリーランスとして3年間インストラクターとして活躍。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	自重トレーニング	上肢、下肢、体幹の自重トレーニング①
2		上肢、下肢、体幹の自重トレーニング②
3		上肢、下肢、体幹の自重トレーニング③
4	バランスエクササイズ	静的なバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング
5		動的なバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング
6		その他のバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング

7		TRXやクロスコア、ViPR、ケトルベル等を用いたエクササイズ①
8	ファンクショナルトレーニング	TRXやクロスコア、ViPR、ケトルベル等を用いたエクササイズ②
9		TRXやクロスコア、ViPR、ケトルベル等を用いたエクササイズ③
10		ハイ・インテンシティ・トレーニング (HIIT) ①
11	ハイインテンシティ・インターバル・トレーニング (HIIT)	ハイ・インテンシティ・トレーニング (HIIT) ②
12		ハイ・インテンシティ・トレーニング (HIIT) ③
13		フォームローラーを用いたセルフ・コンディショニング①
14	セルフ・コンディショニング	フォームローラーを用いたセルフ・コンディショニング②
15	後期まとめ	後期テクニック評価

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリア教育Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリア教育Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材	TAKEOFF/キャリアガイド		出版社	クラブビジネスジャパン	

科目の基礎情報②

授業のねらい	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用試験に臨ませる。				
到達目標	企業へのエントリーをし、説明会に数多く参加する。採用試験に臨み選考に進む。				
評価基準	授業態度：20% レポート：50% プレゼン：30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	キャリア指導Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	宮原 秀人	実務経験		○	
実務内容	フィットネスクラブ・パーソナルトレーニングジムで一般の方々に8年間運動指導者として従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション セルフメッセージ	なりたい自分（目標）を確認する。キャリア支援の実施内容説明し、就職活動に今後自分が何をやるのかを知る。
2	大人とは・・・ 働くということについて	就職するにあたり大人とはどんな人たちを指すのか。働くとはどのようなことなのかの説明とキャリアについて。ビジネスマナー・スタプロ内容の復習・メールの打ち方
3	分野/業種理解①	求人票に記載されている項目を知る。 お互いに好感の持てる身だしなみを確認し合う。
4	分野/業種理解②	キャリアガイドブックを用いて分野・業界を理解する。
5	求人表の見方	給与や福利厚生や求人票から得られる基本情報の収集方法を知る
6	自己分析① 10月の自分へのメッセージ	自分史を作成する。※補助シート2使用 10月の自分へのメッセージ台本の作成（撮影）。
7	自己PR①	自分の長所・短所・得意・不得意を理解する。自己だけでなく他人に分析してもらう。 1つのゴールとして履歴書を書ききる・面接で答えが出来る為に、自己PRを作成することを理解する。
8	自己PR②	前回の分析結果をもとに、自己PRを作成する。
9	履歴書の書き方①	履歴書の重要性を知る、書き方を学ぶ。

10	履歴書の書き方②	履歴書におけるアピールポイントを理解する。お互いに見せ合って添削の実施（伝えたいことが他人が読んで伝わるか）
11	企業分析①	業界・企業研究の仕方を知り、企業研究をする。 学校求人をもとに興味のある企業をピックアップし企業毎の特徴を理解する。
12	企業分析②・業界研究	自身の興味のある1企業をオピニオンポスターのようにまとめ 「〇〇から見た企業PR」という形でプレゼン資料を作る。
13	企業分析③ 発表	業界・企業研修をしたものを発表する。
14	話の聞き方について	話の聞き方や、コミュニケーションにおける重要事項を知る。
15	まとめ 就職活動に向けて	総復習（確認）と就職活動に向けてスケジュールを立てる。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリア教育Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリア指導Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材	TAKEOFF/キャリアガイド		出版社	クラブビジネスジャパン	

科目の基礎情報②

授業のねらい	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用試験に臨ませる。				
到達目標	企業へのエントリーをし、説明会に数多く参加する。採用試験に臨み選考に進む。				
評価基準	授業態度：20% レポート：50% プレゼン：30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	キャリア指導Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	宮原 秀人	実務経験		○	
実務内容	フィットネスクラブ・パーソナルトレーニングジムで一般の方々に8年間運動指導者として従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職活動流れについて 2月の自分へのメッセージ	就職活動の流れを確認し、今後の計画を立てる。 2月の自分へのメッセージ台本の作成（撮影）。
2	WEBエントリー (リクナビ/マイナビ等)	就職サイトを登録をし、興味のある、気になる企業にエントリーをする。
3	企業への電話の仕方、訪問の仕方・メール作成方法	対外部とのやり取りの注意点を学ぶ。アルバイト・実習・就職で必要になるため、実際にペアで練習を行い重要なポイントを確認。お礼状・メールも確認して基本的なビジネスメールを知る。
4	大手企業と中小企業の違い ESと履歴書の違い	大手企業と中小企業での働き方や社会的価値について理解する。 ESと履歴書の違いを知り書き方やアピールポイントの違いを知る。
5	自己分析①	社会人基礎力を試す。※補助シート3使用
6	自己分析②	学生時代に頑張ったことについて書けるようにする。
7	履歴書作成①	履歴書を作成する。（Pcor紙媒体のどちらでも可能）
8	履歴書作成②	履歴書の添削※教員が企業側がどのような視点をしているのか説明 (企業側の見る観点や伝えたいことが書けているのか生徒間で添削)
9	正しいスーツの着方	身だしなみ（女子のメイク含む）確認や就職時の必要物を確認。

10	説明会参加の仕方と留意事項	就活スケジュールの確認と説明会の種類や参加時の服装について説明会時に人事がどこまでの範囲を見ているのかの伝達。
11	SPI・一般常識について	SPIや一般常識テスト対策。どのような力が見られているのか。
12	面接の対策①	面接における入退室（集団）と企業側の見ているPOINTについて 頻出項目についての確認と返答のポイント
13	面接の対策②	PREP法意識。教員2名体制にて実施
14	模擬面接会の振り返り 6月の自分へのメッセージ	企業からのFBを元に振り返り、今後に活かすための具体的行動を設定する。 新学年6月の自分へのメッセージ台本の作成（撮影）。
15	まとめ 就職活動に向けて	立てた計画を見直し、業界動向の情報の得方について確認する。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	イベントプランニングⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	イベントプランニングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	スポーツイベントの企画・運営に携わる人のための教科書 基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント		出版社	一般社団法人日本イベント産業振興協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツイベントの社会における役割理解とスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・実施の基本を理解する。				
到達目標	スポーツイベント検定を取得し、スポーツイベントの企画・立案・実施ができるようになる。				
評価基準	テスト：40% 小テスト：30% 提出物：30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	スポーツイベント検定				
関連科目	イベントプランニングⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	秋吉 美和	実務経験		○	
実務内容	商業施設でのイベント運営として14年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション スポーツイベントを学ぶにあたって①	本授業の目的・意義・資格概要・今後の流れを説明 第1節 スポーツイベントとは
2	スポーツイベントを学ぶにあたって②	第2節 スポーツイベントの歴史 第3節 日本のスポーツ政策
3	イベントの基礎知識①	第4節① イベントの概念と分類、イベント内容の構造
4	イベントの基礎知識②	第4節② メディアとしてのイベント、イベントの企画・計画と制作推進
5	イベントの基礎知識③	第4節③ イベントのマネジメント、日本の広告、イベント産業規模統計
6	スポーツイベントのマネジメント①	第5節 スポーツイベントの基本構造
7	スポーツイベントのマネジメント②	第6節 スポーツイベントのプロジェクトマネジメント
8	スポーツイベントのマネジメント③	第7節① スポーツイベントのリスクマネジメント

9	スポーツイベントのマネジメント④	第7節② スポーツイベントのリスクマネジメント
10	スポーツイベントのマーケティング①	第8節① スポーツイベント（ビジネス）のマーケティング構造
11	スポーツイベントのマーケティング②	第8節② スポーツイベントのスポンサーシップ
12	スポーツイベントのマーケティング③	第8節③ 日本のプロスポーツイベントのマーケティング
13	スポーツイベントとメディアビジネス	第9節 世界のスポーツイベントの日本での放映権、日本でのスポーツイベント、スポーツ観戦参加人口
14	地域活性化とスポーツイベント	第10節 地域活性化機能と2種類のスポーツイベント、4つの地域活性化機能、地域活性化、役割
15	まとめ	前期の振り返り、テストの返却と総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	イベントプランニングⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	イベントプランニングⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	スポーツイベントの企画・運営に携わる人のための教科書 基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント		出版社	一般社団法人日本イベント産業振興協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツイベントの社会における役割理解とスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・実施の基本を理解する。				
到達目標	スポーツイベント検定を取得し、スポーツイベントの企画・立案・実施ができるようになる。				
評価基準	テスト：40% 小テスト：30% 提出物：30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	スポーツイベント検定				
関連科目	イベントプランニングⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	秋吉 美和	実務経験		○	
実務内容	商業施設でのイベント運営として14年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	スポーツイベントの発展性・可能性①	第11節 スポーツイベントとツーリズム
2	スポーツイベントの発展性・可能性②	第12節 障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツ
3	スポーツイベントの発展性・可能性③	第13節 スポーツボランティア
4	スポーツイベントの発展性・可能性④	第14節 スポーツイベントとテクノロジー
5	スポーツイベントの発展性・可能性⑤	第15節 スポーツイベントと都市計画・サステナビリティ、SDGs
6	スポーツイベント検定試験対策①	スポーツイベント検定に向けてのまとめ
7	イベントの政策推進①	第7節 イベントの制作推進と管理
8	イベントの政策推進②	第8節 イベントの会場制作 第9節 イベントのプログラム制作

9	イベントの政策推進③	第10節 イベントの告知・集客
10	スポーツイベント検定試験対策②	スポーツイベント検定模擬試験①
11	スポーツイベント検定試験対策③	スポーツイベント検定模擬試験②
12	イベントの運営とマネジメント①	第11節 イベント運営の全体像 第12節 イベント運営業務のポイント
13	イベントの運営とマネジメント②	第13節 リスクマネジメントと安全管理
14	イベントの運営とマネジメント③	第14節 これからのイベントマネジメント 第15節 ユニバーサルイベント
15	まとめ	これまでの振り返り・テストの返却とイベント検定にむけて

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	コミュニティスポーツ論		
必修選択	選択	(学則表記)	コミュニティスポーツ論		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法		出版社	公益財団法人 日本レクリエーション協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	地域コミュニティ活性化を目的として取り組むスポーツやレクリエーションを通じた地域住民の社会参加の機会から地域で比較的運動能力を問わず多世代で実施できるレクリエーションプログラムや展開方法を学ぶ。				
到達目標	地域コミュニティ活性化の目的を理解する 地域の身近な人々をスポーツや運動を通して支援する活動・事業を考える 現場で必要となるコミュニケーションスキルや集団を対象としたレクリエーション・ワークの技術を身に付ける。				
評価基準	小テスト/テスト：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	古賀 正剛	実務経験		○	
実務内容	ワン・ツウスポーツクラブ 支配人として9年間勤務、健寿株式会社 事業責任者として7年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション コミュニティスポーツとは①	授業の流れ、到達目標について コミュニティとは 地域コミュニティの活性化の役割
2	コミュニティスポーツ② レクリエーションとは	コミュニティスポーツの理解 レクリエーションの歴史、目的、役割
3	レクリエーションへの期待	現代社会の社会運動と行政課題との関係性 楽しさを通した心の元気づくり
4	ライフスタイルとレクリエーション	各ライフステージに合わせた課題 地域の中でのレクリエーション事業と役割
5	レクリエーション支援の理論①	対象者とのコミュニケーション形成
6	レクリエーション支援の理論②	対象者との信頼関係づくり
7	ホスピタリティとは	ホスピタリティとは 信頼関係づくりのためのホスピタリティ
8	まとめ	1～7回目の授業内容のまとめ
9	良好な集団づくり①	集団の理解と良好な集団づくり 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論

10	良好な集団づくり②	アイスブレイキングとは 効果を高める展開方法
11	レクリエーション活動展開法①	自主的、主体的活動促進のための展開方法
12	レクリエーション活動展開法②	相互作用を促進させるコミュニケーション技術
13	コミュニティスポーツプログラム①	コミュニティスポーツプログラムの実践例の紹介
14	コミュニティスポーツプログラム②	コミュニティスポーツプログラムの考案
15	総まとめ	1～11回目の授業内容のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	リテールマーケティングⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	リテールマーケティングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	3級ハンドブック(2冊セット)+過去問題1回分付		出版社	株式会社キャリアック	

科目の基礎情報②

授業のねらい	マーケティングの基本的な考え方や流通・小売業に必要な基本知識・技能を理解する。				
到達目標	小売業態についての基礎知識を習得する 小売業における商品の考え方を習得する 店舗運営の基本を習得する マーケティングの基本的な考え方を習得する				
評価基準	小テスト：80% 授業態度/提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	リテールマーケティング（販売士）				
関連科目	リテールマーケティングⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大串 雅一	実務経験		○	
実務内容	如水庵にて、12年間店舗運営業務に従事、その後、小売営業部長として6年間勤務を経て、現在、卸売営業部長として6年目の勤務を行っている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 小売業の種類①	授業の目的、リテールマーケティングについて 流通における小売業の基本
2	小売業の種類②	組織形態別小売業の基本①
3	小売業の種類③	組織形態別小売業の基本②
4	小売業の種類④	店舗形態別小売業の基本的役割
5	小売業の種類⑤	商業集積の基本
6	小売業の種類まとめ	第1編 小売業の種類についての総復習
7	マーチャンダイジング①	商品の基本
8	マーチャンダイジング②	マーチャンダイジングの基本
9	マーチャンダイジング③	商品計画の基本

10	マーチャンダイジング④	販売計画および仕入れ計画などの基本
11	マーチャンダイジング⑤	価格設定の基本
12	マーチャンダイジング⑥	在庫管理の基本
13	マーチャンダイジング⑦	販売管理の基本
14	マーチャンダイジングまとめ	第2編 マーチャンダイジングについて総復習
15	まとめ	1～14回 総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	リテールマーケティングⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	リテールマーケティングⅡ		
開講					
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	単位数	2
使用教材	3級ハンドブック(2冊セット)+過去問題1回分付		出版社	株式会社キャリアック	

科目の基礎情報②

授業のねらい	マーケティングの基本的な考え方や流通・小売業に必要な基本知識・技能を理解する。				
到達目標	小売業態についての基礎知識を習得する 小売業における商品の考え方を習得する 店舗運営の基本を習得する マーケティングの基本的な考え方を習得する				
評価基準	小テスト：80% 授業態度/提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	リテールマーケティング（販売士）				
関連科目	リテールマーケティングⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大串 雅一	実務経験	○		
実務内容	如水庵にて、12年間店舗運営業務に従事、その後、小売営業部長として6年間勤務を経て、現在、卸売営業部長として6年目の勤務を行っている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ストアオペレーション①	ストアオペレーションの基本
2	ストアオペレーション②	包装の基本、ディスプレイの基本
3	ストアオペレーション③	ディスプレイの基本 ストアオペレーション総復習
4	マーケティング①	小売業のマーケティングの基本
5	マーケティング②	顧客満足経営の基本
6	マーケティング③	商圏の設定と出店の基本
7	マーケティング④	リージョナルプロモーションの基本
8	マーケティング⑤	顧客志向型売り場づくりの基本
9	マーケティングまとめ	第4編 マーケティングについて総復習
10	販売・経営管理①	販売員の役割の基本

11	販売・経営管理②	販売員の法令知識
12	販売・経営管理③	小売業の計数管理、店舗管理の基本
13	販売・経営管理まとめ	第5編 販売・経営管理の総まとめ
14	まとめ	テキスト上下巻総復習
15	総まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	アプリケーション演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	アプリケーション演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	基本アプリケーション（ワード、エクセル、パワーポイント）の使用から画像、映像の加工など業務における汎用的なPC活用のリテラシーを習得する。				
到達目標	スポーツビジネス現場において必要とされる、最低限のパソコン技術を身につける。 Wordを用いたビジネス文書、Excelを用いた表・関数を用いたデータ作成、powerpointを用いたデータ作成ができる。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20% <input checked="" type="checkbox"/>				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	アプリケーション演習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	宮原 秀人	実務経験		○	
実務内容	フィットネスクラブ・パーソナルトレーニングジムで一般の方々に8年間運動指導者として従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション PC基礎知識	授業の流れ、到達目標、評価基準について説明 タイピング練習
2	word作成①	wordの基礎知識（各部名称・機能）について・文字入力方法の理解・文章の入力 文章の入力と保存・読み込み・印刷
3	word作成②	フォント・表作成・画像挿入の方法を知る
4	word作成③	ビジネス文書作成練習（フォント・表作成・画像挿入）
5	word作成④	ビジネス文書作成練習（フォント・表作成・画像挿入）
6	Excel作成①	Excelの基礎知識（各種名称・機能）について・データ入力の手順・保存と印刷方法 基本的なワークシートの編集（セルの挿入・削除、数式の入力・書式編集）
7	Excel作成②	様々なグラフの作成 関数の使用方法について
8	Excel作成③	グラフを用いたExcelデータの作成練習

9	Excel作成④	Excelデータの作成実施
10	powerpoint作成①	PPTを用いた資料作成 デザイン・テキスト編集について
11	powerpoint作成②	PPTを用いた資料作成 写真や図の挿入について
12	powerpoint作成③	プレゼンテーション資料の作成
13	powerpoint作成③	プレゼンテーション資料の作成
14	総まとめ	Word・Excel・powerpointデータ作成の実施
15	前期の振り返りと後期に向けて	前期実施内容のまとめ・後期に向けて（Powerpoint実施の説明）

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	アプリケーション演習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	アプリケーション演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	基本アプリケーション（ワード、エクセル、パワーポイント）の使用から画像の加工など業務における汎用的なPC活用のリテラシーを習得する。				
到達目標	スポーツビジネス現場において必要とされる、最低限のパソコン技術を身に着ける。 Windows フォトの使用と、PowoePointの作成・プレゼンテーションをすることができる。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%☒				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	アプリケーション演習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	宮原 秀人	実務経験	○		
実務内容	フィットネスクラブ・パーソナルトレーニングジムで一般の方々に8年間運動指導者として従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 基本スキルの復習	授業の流れ、到達目標、評価基準について説明 ITリテラシー、プレゼンテーションとは
2	写真加工の方法について	写真加工の方法について学ぶ
3	写真加工の方法について	写真加工の方法について学ぶ
4	イベント企画・ロゴ作成	イベント企画とペイント・フォトを用いたロゴ作成
5	イベント企画・ロゴ作成	イベント企画とペイント・フォトを用いたロゴ作成
6	報告書作成の実践	ボランティア参加した内容の報告書作成（パワーポイントを用いて）
7	報告書作成の実践	ボランティア参加した内容の報告書作成（パワーポイントを用いて）
8	報告書作成の実践とFB	ボランティア参加した内容の報告書作成とそのフィードバックの実施

9	プレゼンテーション作成	テーマ設定 PPT作成の実施
10	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション作成
11	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション作成
12	プレゼンテーション発表	自身で設定したテーマを用いたPPTの発表
13	プレゼンテーション発表	自身で設定したテーマを用いたPPTの発表
14	発表リハーサル	発表準備（ノート機能の理解・発表練習）
15	まとめ	総まとめの実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	フィットネスクラブマネジメント		
必修選択	選択	(学則表記)	フィットネスクラブマネジメント		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	フィットネスクラブマネジメント 公式テキスト基礎 FCM技能検定学科・実技試験問題解答解説集		出版社	一般社団法人 日本フィットネス産業協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	フィットネスクラブに従事する者として、フィットネス産業の商品・サービスなどの特徴及び重要性などを正しく理解し、将来性を描き、そこに適切にアプローチできる能力を身に付ける				
到達目標	フィットネスクラブマネジメント検定3級の取得				
評価基準	テスト・検定/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	フィットネスクラブマネジメント技能検定3級				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	古賀 正剛	実務経験		○	
実務内容	ワン・ツウスポーツクラブ 支配人として9年間勤務、健寿株式会社 事業責任者として7年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明・日本のフィットネスクラブ業界のトレンド
2	第1章 フィットネス産業	フィットネス産業の現状・歴史・特徴
3	第2章 健康づくり	健康施策の概要と動向・生活習慣病とその予防 栄養・運動・休養
4	第3章 運動・トレーニング基礎	運動生理学の基礎・トレーニングの基礎
5	第4章 店舗運営	フロント業務・ジム運営
6	第4章 店舗運営	スタジオ運営・プール運営業務
7	第4章 店舗運営	イベント企画運営 ショップ販売及び付帯業務・クラブ内での緊急対応
8	第5章 施設・設備管理の意義と重要性	総合クラブの施設内容

9	第5章 施設・設備管理の意義と重要性	管理の概念と基本
10	第6章 顧客マネジメント	顧客対応と接客の心構え
11	第6章 顧客マネジメント	見学者対応・顧客対応と課題解決
12	第7章 チームワークとコミュニケーション	組織と業務分担の考え方・仕事の進め方 コミュニケーションの重要性・リーダーシップとフォロワーシップ
13	第8章 安全衛生	職場の安全衛生
14	試験対策①	試験対策① 過去問題の実施
15	試験対策②	試験対策② 模擬問題の実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ビジネスコミュニケーションⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスコミュニケーションⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材	サービス接客検定3級 公式テキスト サービス接客検定実問題集3級		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	ショップ店員・販売員として最低限必要な立ち居振る舞いの知識を身につける。				
到達目標	販売員としての、挨拶、立ち振る舞い、接し方を習得し実践できる。 接客の流れを理解し、挨拶～見送るまでの一連の動作ができる。 サービス接客検定3級取得				
評価基準	テスト：40%、小テスト：40%、提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接客検定3級				
関連科目	ビジネスコミュニケーションⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	秋吉 美和	実務経験		○	
実務内容	商業施設でのイベント運営として14年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	販売での必要とされる要件	第一印象（笑顔、言葉遣い、身だしなみ）の重要性、ビジネスマナーを理解する。
2	従業要件	ビジネスマナーを理解する。
3	サービス知識	サービスの意義の理解、機能、種類を把握する。
4	従業知識	商業用語、経済用語を理解する。（接客6大用語も含む）
5	一般知識	社会常識・時事問題を理解する。
6	対人技能 接客知識①	良好な人間関係の築き方を理解する。
7	対人技能 接客知識②	対人心理を理解する。 一般的マナー・接客者としてのマナーを心得る。
8	対人技能 接客知識③	接客用語を覚える。 接客者としての話し方を理解・実践できる。

9	対人技能 接客知識④	接客者としての適切な服装を理解する。 対人技能 接客知識のまとめ
10	実務技能①	問題処理について理解する。
11	実務技能②	環境整備について理解する。
12	実務技能②	金品管理について理解する。
13	実務技能②	社交業務について理解する。
14	まとめ	まとめを実施する。
15	総まとめ	まとめの振り返りと総まとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスコミュニケーションⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科		15
使用教材	サービス接客検定3級 公式テキスト サービス接客検定実問題集3級		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	ショップ店員・販売員として最低限必要な立ち居振る舞いの知識を身につける。				
到達目標	販売員としての、挨拶、立ち振る舞い、接し方を習得し実践できる。 接客の流れを理解し、挨拶～見送るまでの一連の動作ができる。 サービス接客検定3級取得				
評価基準	テスト：40%、小テスト：40%、提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接客検定3級				
関連科目	ビジネスコミュニケーションⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	秋吉 美和	実務経験		○	
実務内容	商業施設でのイベント運営として14年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	試験対策①	試験に向けて対策をする。
2	試験対策②	試験に向けて対策をする。
3	試験対策③	試験に向けて対策をする。
4	対人技能 接客知識～実践編①～	テキストの振り返りをしながら実技（実践形式）を行う。 笑顔で元気な声掛けとともに綺麗な礼をして挨拶している。
5	対人技能 接客知識～実践編②～	テキストの振り返りをしながら実技（実践形式）を行う。①常にお客様の所在と動きに気を配り状況を確認している。 ②作業中の場合は手を止め体をむけ、お客様の顔を見て挨拶している。
6	対人技能 接客知識～実践編③～	テキストの振り返りをしながら実技（実践形式）を行う。①セカンドアプローチ ①お客様の反応を確認しながら、自然な流れをつくる。②お客様の視線の高さと同目線で会話をしている。
7	対人技能 接客知識～実践編④～	テキストの振り返りをし、実技（実践形式）を行う。ヒアリング診断 ①一方的に話すのではなく、お客様から話を聞き出しながら対話する。②お客様の話に相づちを打ちながら耳を傾ける。
8	対人技能 接客知識～実践編⑤～	テキストの振り返りをし、実技（実践形式）を行う。 クロージング ①サイズやカラーなどお決まりの商品の概要を確認する。②買い物かごに商品を入れてご用意する。
9	対人技能 接客知識～実践編⑥～	テキストの振り返りをし、実技（実践形式）を行う。 接客中でのヒアリング実技（実践形式）を行う。

10	実務技能～実践編①～	テキストの振り返りをし、問題処理について実技（実践形式）を行う。 誠意を持ってクレーム対応ができるようになる。
11	実務技能～実践編②～	テキストを振り返りしながら、環境整備について理解を深める。 環境整備の観点を理解し、普段の学校生活から実践できるようになる。
12	実務技能～実践編③～	テキストの振り返りをし、金品管理について実技（実践形式）を行う。 正確な授受や丁寧な接客態度を身に付ける。
13	実務技能～実践編④～	テキストの振り返りをし、社交業務について実技（実践形式）も踏まえながら、理解を深める。 一般常識を身に付ける。
14	まとめ	まとめを実施する。
15	総まとめ	まとめの振り返りと総まとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ		
開講		単位数	時間数		
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	30
使用教材	7つの習慣Ⅰテキスト、夢のスケッチブック		出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人/職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する ・他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる 				
評価基準	小テスト/レポート：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	なし				
関連科目	キャリア教育				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	林 崇文	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	未来デザインプログラム授業への価値付けを行い、日誌を書くことの意味や今日から実行できる機会を考える
2	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの概念を知り、自分制限パラダイムを取り払った状態で行動が継続できる様に考える
3	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解すると共に、自分自身への約束を守る大切さを学ぶ
4	刺激と反応	刺激と反応の考え方を理解し、どのような状況でも一時停止ボタンを使い主体的に判断・行動していくことの大切さを考える
5	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
6	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にし、今自分がやるべき事、考えるべき事を優先順位を考えながら整理していく大切さを学ぶ
7	選んだ道と選ばなかった道	自分の選択は自分の気持ち次第であり、自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
8	「SDGs」とは？	国際目標であるSDGsとは何か？ またそのゴールは何かを学び、自分できることを考える

9	人生のビジョン	10年後のなりたい自分を考えることにより、スタプロで考えた「卒業時の姿」をより具体的に考える
10	自分の価値観を知る	なりたい姿を鮮明にすることの大切さを知り、自分の価値観を深掘りすることで、将来のなりたい姿を具体的にイメージできるプロセスを学ぶ
11	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ。自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
12	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
13	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
14	私的成功の振り返り	主に私的成功の習慣（前期授業内容）の復習（知識確認）
15	成功するための原則	前期の総括とともに、あきらめないことの大切さを考えセルフモチベーションを高めていく
16	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
17	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
18	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、理解してから理解するという考え方があるということ学ぶ
19	相乗効果を発揮する	多様性や人と違いがあることに価値があることを学ぶ
20	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
21	過去の自分とこれからの人生	具体的なライフプラン・人生の目的/目標設定を考える
22	人生ビジョンを見直そう	自らが立てたライフプランを現実的な視点から見つめ、必要な軌道修正を考える
23	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高めていく
24	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
25	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
26	X Yゲーム	ゲームを通じて未来デザインプログラムで学んだことを常にも実践することは難しいということ学ぶ
27	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラム授業で学んだことの復習（知識確認）
28	後期の総括	後期の総括と2年生にむけてモチベーションを高めていく
29	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
30	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップ実習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップ実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	2	60
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ。				
到達目標	実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる。 課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる。 組織の一員として現場で求められる専門知識・技術を理解することができる。				
評価基準	実習評価：50% 学校評価：50% (実習手帳評価)				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる 原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	島袋 雄輝	実務経験	○		
実務内容	ホテルオークラ福岡ヘルスクラブにてパーソナルトレーナーとして勤務5年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	企業研究	希望職種、過去実績を基に実習企業を調べる
2	実習先の決定	企業側の承諾をもって決定
3	事前ガイダンス	実習活動中の留意点の確認、実習手帳の使用についての説明 企業、実習生間により事前打合せの指示
4	実習	実習時間は22時までとする

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	サービスラーニング演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	サービスラーニング演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	4	60
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	イベント運営の一員として参加者へ喜んでもらうこと・楽しんでもらうことを体感し「ささえるスポーツ」の楽しさを知る。社会的活動を通して、自らの社会的役割を意識するようになる。				
到達目標	コミュニケーション能力の向上。イベント運営者の1人として責任を果たす行動をとることができ、多くの人と1つのものを創り上げることを目指す。				
評価基準	規定時間到達（50％）、事前事後課題及び報告書の提出（50％）				
認定条件					
関連資格	日本スポーツボランティアネットワーク認定 スポーツボランティア研修会				
関連科目	サービスラーニング演習Ⅱ				
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる				
担当教員	鳥袋 雄輝	実務経験	○		
実務内容	ホテルオークラ福岡ヘルスクラブにてパーソナルトレーナーとして勤務5年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	スポーツボランティア研修会事前学習	スポーツボランティアの目的・ねらいの理解 スポーツボランティア参加の必要性
2	スポーツボランティア研修会	原則、履修者は参加
3	スポーツボランティア研修会事後学習	スポーツボランティア研修会で学んだことのアウトプット（感想文800文字以上）
4	事前学習	参加するボランティアの概要、当日の流れをの把握（ボランティアの概要と目標シートの提出）
5	ボランティア	実際にボランティアへ参加する（大会引率・運営協力など）
6	事後学習	実施報告書と活動証明書を作成し提出 活動報告会の実施（グループディスカッションなどを通して発表）
7	※計60単位時間を満たすこと	

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	総合演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②

授業のねらい	スポーツ業界が専門学校に求める『専門性』『コミュニケーション』『ビジネス力』『イノベーション(創造する力)』を個々が総合的に身につける。				
到達目標	業界のニーズを理解し、自身の提案を形にすることができる。 自身の提案について、完成までのスケジューリングを行い、軌道修正しながら完遂することができる。 自分以外の意見や提案を受け入れ、自身の提案のブラッシュアップに繋げることができる。				
評価基準	プレゼンテーション（個人発表）：40% 提出物（データ提出）：20% 授業態度：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	総合演習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	中西 由紀	実務経験		○	
実務内容	スポーツクラブネサンスにて10年間勤務、現在は、フリーのインストラクターとしてアクアビクスなどを様々なレッスンを指導、学生の水中運動の授業を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的・到達目標（授業を通して身につけていく力を知る）
2	業界理解①	スポーツ業界・ヘルスケア産業・ICTとは何かを知る デジタルとリアル時代の変化・求められるスキル・知識（ICT）を知る
3	業界理解②	スポーツ業界におけるトレンドを知る
4	業界理解③	企業での取り組み事例や求められるスキル、知識を知る（著作権、コンプライアンス）
5	プレゼンテーションとは①	プレゼンテーションの種類、プレゼンテーションの必要性、プレゼンテーションの構成
6	プレゼンテーションとは②	PDCAサイクルの理解、スケジューリング
7	プレゼンテーションとは③	PowerPoint/keynoteの活用/基本操作の理解
8	個人活動①	プレゼンテーション内容の設定

9	個人活動②	プレゼンテーション作成①
10	個人活動③	プレゼンテーション作成②
11	グループ内発表	グループ分け、グループ内プレゼンテーション及びF B
12	個人活動③	プレゼンテーション修正
13	発表①	実際のプレゼンテーション及びF B
14	発表②	実際のプレゼンテーション及びF B
15	後期に向けて	後期動画制作に向けてのスケジュール確認 前期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	総合演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	スポーツビジネス科	1	15
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	授業での学びやスポーツ・産学連携などに関する経験をもとに、広く一般の人達に「レクチャー」「知識の披露」「学びの成果」等を発表し、「映像、動画によるプログラム」を発信する力を身につける。				
到達目標	動画制作における著作権に関する基本事項を理解する。 動画制作におけるPDCAサイクルの進め方を理解する。 映像・動画の制作を通して一般の方へOutputすることができる。				
評価基準	提出物の提出状況：30% 発表（動画コンテンツ）：30% 授業態度：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	総合演習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	中西 由紀	実務経験		○	
実務内容	スポーツクラブネサンスにて10年間勤務、現在は、フリーのインストラクターとしてアクアビクスなどを様々なレッスンを指導、学生の水中運動の授業を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、方向性の確認 業界ニーズの再確認
2	動画を利用したプレゼンテーション①	動画コンテンツ制作にあたっての魅力的な見せ方、構成を知る
3	動画アプリの紹介と活用①	動画制作アプリの紹介
4	動画アプリの紹介と活用②	
5	個人ワーク②	これまでの学びを通じた授業紹介映像の作成 構成の検討
6	個人ワーク③	授業紹介映像の作成①
7	個人ワーク④	授業紹介映像の作成②
8	グループ内発表	グループ内発表、フィードバック
9	動画を利用したプレゼンテーション②	動画を用いたプレゼンテーション/オンデマンドコンテンツとは 動画作成におけるポイントの理解

10	動画コンテンツ作成①	絵コンテの作成
11	動画コンテンツ作成②	素材の編集①
12	動画コンテンツ作成③	素材の編集②
13	クラス内発表②	クラス内発表①
14	クラス内発表②	クラス内発表②
15	振り返り	プロセスの中で得たスキルの確認 総合演習Ⅲとの接続